

令和3年度

小論文

(60分)

栄養科学部 フード・マネジメント学科

解答はすべて解答用紙に記入すること

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題用紙を開かないこと。
2. 問題用紙は、表紙を含めて3ページである。
3. 解答用紙は、2枚である。2枚とも解答すること。
4. 受験番号・氏名は、監督者の指示に従って記入すること。
5. 問題用紙の余白等は適宜使用してよい。

問題（その1）

栄養科学部 フード・マネジメント学科

図1-1および図1-2は、農林水産省「平成26年度食品ロス統計調査（世帯調査）」から一部改変して作成したものです。食品ロスとは、「食べ残し」、調理されず捨てられた「直接廃棄」、皮などを取り除きすぎた「過剰除去」を合わせたものを指します。食品ロスを削減することは、2030年に向けた持続可能な開発目標（SDGs）の達成にも貢献します。図1-1は、世帯における主な食品別の食品ロス率を示したものです。図1-2は、食事管理者（世帯において、食材の購入、調理などを行う、家庭での食事管理の主体となる者をいう）の年齢階層別の食品ロス率を示したものです。図をよく見て、以下の問いに答えなさい。

図1-1 主な食品別の食品ロス率

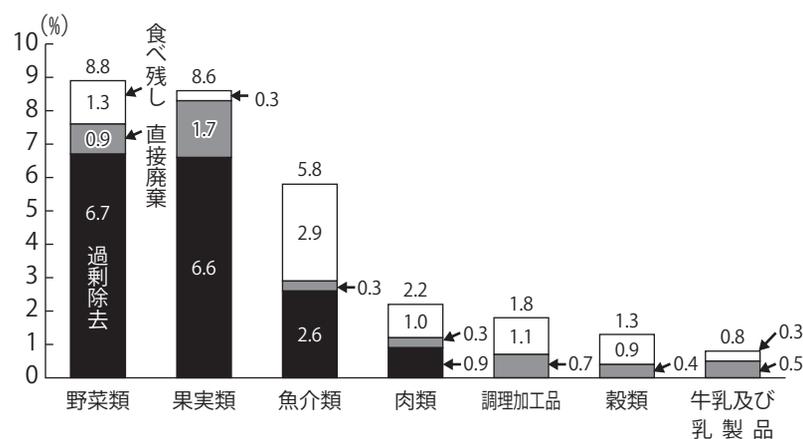
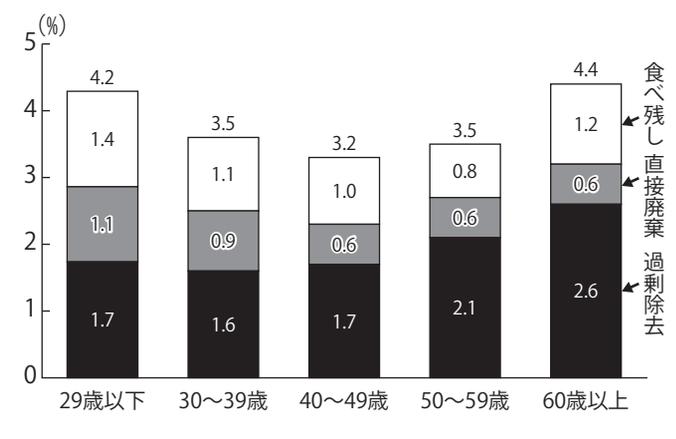


図1-2 食事管理者の年齢階層別の食品ロス率



（資料：農林水産省「平成26年度食品ロス統計調査（世帯調査）」より一部改変して転載）

注 食品ロス率＝食品ロス量÷食品使用量。

問1. 図1-1を見て、野菜類の食品ロス量を20gとした場合の、野菜類の食品使用量を計算しなさい（答えは、小数第2位を四捨五入し、小数第1位までとすること）。

問2. 図1-1を見て、食品ロス率に占める直接廃棄の割合が最も高い食品名を、次の①～⑧うちから一つ選べ。

- ① 野菜類 ② 果実類 ③ 魚介類 ④ 肉類
- ⑤ 調理加工品 ⑦ 穀類 ⑧ 牛乳及び乳製品

問3. 図1-2を見て、食事管理者の年齢階層別食品ロス率の特徴を、120字以内で答えなさい。

問4. 図1-1および図1-2を見て、食事管理者の年齢階層についてデータから読み取れる内容に合致するものを次の中から2つ選び、番号で答えなさい。

- ① 29歳以下と60歳以上の年齢階層において野菜類と魚介類の食べ残しを減らすことが、食品ロス率の減少につながる。
- ② 29歳以下の年齢階層は、他の年齢階層と比較すると、野菜類の食べ残しの割合が高い。
- ③ 50歳以上の年齢階層において、野菜類と果実類の過剰除去を減少させると、全体の食品ロス率を減らすことに効果的である。
- ④ 年齢階層が上がるにつれて、肉類、穀類、牛乳及び乳製品の直接廃棄の食品ロス率の減少がみられる。
- ⑤ 60歳以上の年齢階層において、野菜類と果実類の食品ロス量を減らそうとする「もったいない」意識が、強い傾向がみられる。

著作権の都合により掲載していません。

問1. 下線部①の「人間が生きていく上で不可欠なものだからといって、その値段が高いわけではない」理由を、本文の論旨に沿って50字以内で述べなさい。

問2. 下線部②の「奢侈（しゃし）品」の説明として、文章をよく読んで、最も適当なものを、次の(a)～(d)のうちから一つ選びなさい。

- (a) パニックや市場の機能不全になった時に、価格が高騰する商品
- (b) なくても日常生活に支障がなく、安い商品
- (c) 生活必需品のように、いかなる時にも必要性が高い商品
- (d) 所得が高くなると需要が大きく増加する商品

問3. 下線部③の「送っていただいた農産物を改めてありがたく頂戴した」について、筆者が「改めてありがたく」感じた理由を、以下のキーワードをすべて用いて、100字以内で述べなさい。キーワードは複数回用いてもよい。

キーワード：生活必需品、農産物、パニック、重要性、手ごろな価格